

松山南高校「チャレンジリサーチ（C R）」生徒の取組評価用ルーブリック（プロセス評価）

下表は、担当教員の立場から、指導担当班のこれまでの取組状況を点検し、今後の指導の参考にするための評価基準です。

各観点について、評価3の記載内容を高校生として標準的なレベルとします。ルーブリックを参照しながら、各項目について4、3、2いずれかの評価をしてください。

なお、特に達成度の高い項目（0～2項目）と特に達成度の低い項目（0～2項目）については、それぞれ5、1と評価してもよい。

今回の評価を踏まえて、次回評価時に4以上の評価が増えるように、継続的な指導助言をお願いします。

評価 評価の観点	(5～) 4	3	2 (～1)	取組 評価
	標準的なレベル（3）を越えて達成できた	標準的なレベル（3）をおおむね達成できた	標準的なレベル（3）を達成したとはいえない	
先行研究	研究テーマに関連する専門書や学術論文を含めて丹念に調べることができた。かつ、文献リストを作成した。	研究テーマに必要な初歩的な文献や資料を調べることができた。かつ、文献リストを作成した。	Webサイト上の情報収集にとどまった。または、文献リストを作成していない。	
課題意識と 発展性	学術的・社会的な課題意識を反映したリサーチクエストと仮説を設定し、仮説の検証や課題解決のための提案など何を明らかにしたいか明確である。	学術的・社会的な課題意識をもち、調査・実験可能なテーマを設定している。	学術的・社会的な課題意識から考えたというよりも表面的な発想からテーマを設定した。	
計画・準備と 実施状況	主体的かつ定期的に担当教員に相談・報告しながら取り組み、おおむね計画通りに進めることができた。	月に2回程度担当教員に計画・方法・結果分析などを相談・報告しながら取り組み、おおむね計画通りに進めることができた。	担当教員に相談・報告をほとんどしなかったり、場当たりの取組で、C Rの時間を活用できなかったりした。	
研究方法の 妥当性	目的を達成するために、客観性が高く現実性のある調査・実験方法を具体的に考えることができた。	目的に照らして調査・実験方法を検討しているが、客観性の確保などの点で再考の余地がある。	調査・実験方法を考えてはいるが、目的を達成するには不十分であった。	
好奇心・興味関心・探究心	高い課題意識で研究を進め、研究テーマについて仮説・検証をくり返ししながら深く探究することができた。	研究を進めるにつれて興味を抱く事柄を発見することができたため、関心をもって研究テーマに取り組むことができた。	研究を進める中であまり興味を抱く事柄を発見することができなかったため、進んで研究テーマを深めるところまでいかなかった。	
創意工夫・ オリジナリティ	先行研究との相違点を明確にしつつ、独自の手法に挑戦したり、自分なりに実験・調査結果を考察したりできた。	手法を工夫したり、自分なりに実験・調査結果を考察したりしたが、先行研究との相違点はやや不明瞭だった	手法に工夫が見られなかったり、実験・調査結果の自分なりの考察が不十分で先行研究の引用にとどまったりした。	
役割分担と 協力	C Rの時間に自己の役割を十分果たすとともに、それぞれの状況を考慮しながら放課後等も互いに役割分担・協力して、積極的に研究を進めていた。	C Rの時間に、メンバーそれぞれが自己の役割を果たすために活動できていた。	C Rの時間においても、一部のメンバーは自己の役割を果たさず、他のメンバーに頼りきりであった。	
コメント	ゴシック…3を基準としたときの主な相違点・評価ポイント ※CRにおいて、指導担当者が「役割分担と協力」を評価することは材料不足で困難であると考えますので、評価不要です。			

愛媛大学課題研究評価ルーブリック（簡易バージョン）Ver1.0 を一部改変(2019.5)

担当班

評価者名

評価日 月 日